

こぶしの里で ホタルの光を 観賞しよう。

こぶしの里。わき水が小川となって流れる、自然の散策道。春にはこぶしの花をはじめ、たくさんの花が咲き誇ります。そのこぶしの里でホタルが舞うこの写真は、昨年(2022)の6月3日に撮影したものです。ホタルはメスをオスが追いかける習性があり、この写真から、上昇して逃げるメスと追いかけるオスの様子が分かります。今年もホタルの幻想的な光をお楽しみください。



【こぶしの里】三芳町竹間沢 1081-1
車でお越しの際には案内看板に従ってください。

【観賞時の注意点】

- ・ホタルは光や音に敏感です。こぶしの里内でのカメラのフラッシュ、携帯電話の使用や懐中電灯などをご遠慮ください。
- ・近隣には住宅があります。大きな声を出したり、周りに迷惑がかかる行為はやめましょう。
- ・路上駐車は周囲に迷惑がかかります。多くはありませんが、駐車場がありますので、案内看板に従って駐車してください。

※参考

昨年は6月の早いうちに見ごろのピークを迎え、6月15日にはほとんど光を観ることができませんでした。見ごろは気候により変化しますので、観賞時期にご注意ください。

「魅力」、「喜び」、「幸せ」。今年もぜひ、こぶしの里で、ホタルの光を観賞し、町の魅力のひとつを感じてみませんか。

また、子どもたちにホタルを身近に感じてほしいという思いから毎年、竹間沢小学校の児童たちがホタルの幼虫を、こぶしの里に流れる川に放流をしています。今年は4月10日に行われ、成虫となったホタルとの再会を楽しみしながら、幼虫の放流を行いました。

都心から一番近い町、三芳町。この町でホタルを見ることができると、子どもたちにも見たい機会はなくありません。その光を見た地元竹間沢の皆さんは、大人になっても忘れることはなく、「自分たちが見ていた幻想的なホタルの光を、子どもたちにも見てほしい」との思いから、平成14年に「竹間沢ホタル育成会」を発足させました。この会では、こぶしの里に流れる川の清掃を行い、毎年約千匹のホタルの幼虫をこぶしの里に放流しています。観賞の時期には、周辺パトロールや、おとずれる人に観賞のポイントを伝えるなどしています。

昭和30年代。現在の竹間沢東地区には田んぼが広がっていました。夏になると夜空には無数のホタルが舞っていたそうです。しかし、開発が進み、徐々に田んぼはなくなり、ホタルが放つ幻想的な光を観る機会はなくなりました。

昭和30年代。現在の竹間沢東地区には田んぼが広がっていました。夏になると夜空には無数のホタルが舞っていたそうです。しかし、開発が進み、徐々に田んぼはなくなり、ホタルが放つ幻想的な光を観る機会はなくなりました。